

第170回 日商簿記検定試験 1級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 標準原価計算

X社について (①~⑫の解答)

1. 材料費差異の分析 (①~④の解答)

純粋な価格差異 △100,000円	混合差異 △1,000円	実際 @1,550
	数量差異 △30,000円	標準 @1,500

標準
2,000kg
実際
2,020kg

2. 労務費差異の分析 (⑤~⑥の解答)

賃率差異 △5,200円		実際 @2,020
	作業時間差異 △20,000円	標準 @2,000

標準
250時間
実際
260時間

3. 1個あたり平均段取時間 (⑦の解答)

1時間(一回当たり段取り時間) ÷ 20個(標準ロットサイズ) = **0.05時間/個**

4. 段取時間と加工時間を合わせた製品Xの直接労務費の原価標準(⑧の解答)

標準作業時間 : 0.25 時間/個 + 0.05 時間/個 = 0.3 時間/個

原価標準 : 2,000 円/時間 × 0.3 時間/個 = **600 円/個**

参考 : 作業時間の区分

勤務時間			
総就業時間			休憩時間
実働時間		手待時間	
直接作業時間	間接作業時間		
加工時間	段取時間		

5. 作業時間差異の分析(⑨~⑪の解答)



6. 製造間接費の差異分析(⑫の解答)

前提 : 製造間接費は固定費があるため、標準原価管理(製品単位当たりの原価管理)はできない。

よって、「費目ごとに」**予算許容額**と**実際発生額**を比較して予算差異を分析する必要がある。

結論 : **予算差異**以外は原価管理上意味のある差異をノイズから分離するための差異であると言える。

各差異のもつ意味

予算差異	予算許容額(実際操業度における製造間接費の目標発生額)と実際発生額の差
能率差異	達成すべきであった標準操業度と実際操業度との差
操業度差異	実際操業度と基準操業度との差

* 能率差異と操業度差異は単なる操業度の隔たりに過ぎないため、原価管理上の重要度は低い。

Y社について (13~20の解答)

1. 生産個数の前提 (13の解答)

$$1,000 \text{ 時間 (基準操業度)} \div 0.5 \text{ 時間/個 (標準直接作業時間)} = 2,000 \text{ 個}$$

2. 製品Yの製造間接費原価標準 (14の解答)

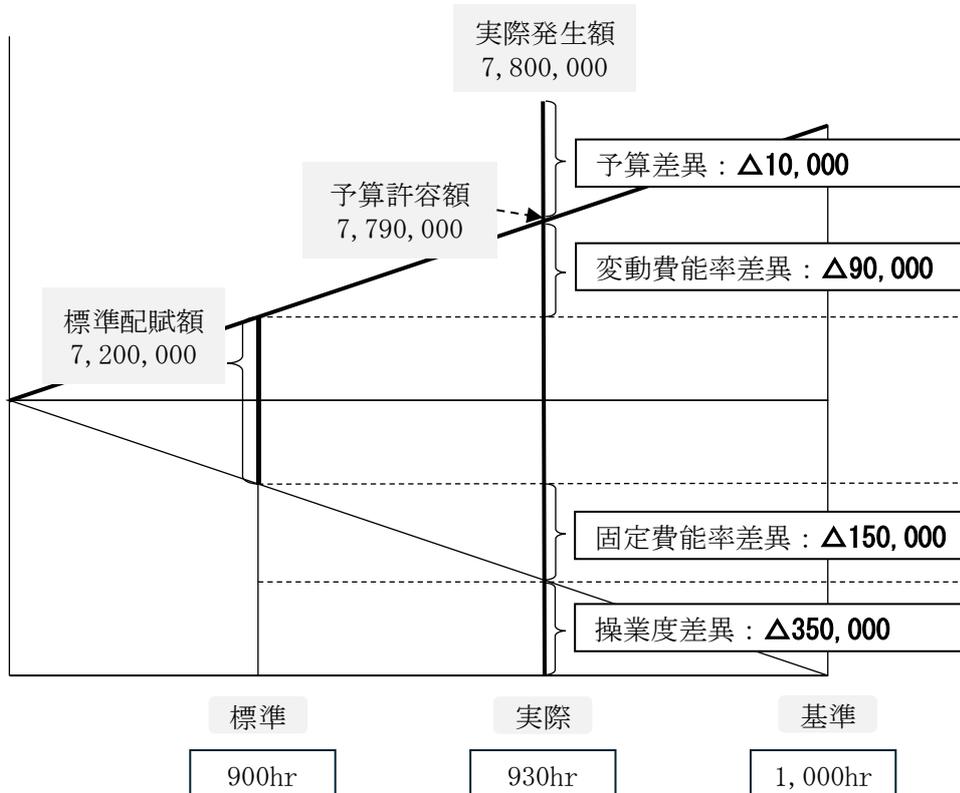
$$\text{標準配賦率} : 8,000,000 \text{ 円 (月間予算)} \div 1,000 \text{ 時間 (基準操業度)} = 8,000 \text{ 円/時間}$$

$$\text{原価標準} : 8,000 \text{ 円/時間 (標準配賦率)} \times 0.5 \text{ 時間/個 (標準操業度)} = 4,000 \text{ 円/個}$$

3. 標準配賦額 (15の解答)

$$1,800 \text{ 個 (実際生産量)} \times 4,000 \text{ 円/個 (原価標準)} = 7,200,000 \text{ 円}$$

4. 製造間接費の差異分析 (16~19の解答)



Z社について(㉑～㉕の解答)

1. 実際歩留率の計算(㉕の解答)

$$990\text{Kg(産出量)} \div 1,200\text{Kg} = \mathbf{82.5\%}$$

2. 歩留配合差異の分析(㉑～㉓の解答)

標準投入量の算定

$$\text{生産量} : 990\text{Kg} \div 9\text{Kg(製品単位当たり標準産出量)} = 110 \text{ 単位(生産量)}$$

$$\text{原料Aの標準投入量} : 110 \text{ 単位} \times 5\text{Kg} = 550\text{Kg}$$

$$\text{原料Bの標準投入量} : 110 \text{ 単位} \times 3\text{Kg} = 330\text{Kg}$$

$$\text{原料Cの標準投入量} : 110 \text{ 単位} \times 2\text{Kg} = 220\text{Kg}$$

配合割合	歩留差異		配合差異	
	標準	標準	標準	実際
歩留率	標準	↔	↔	実際
原料A	550 Kg		600 Kg	600 Kg
原料B	330 Kg		360 Kg	240 Kg
原料C	220 Kg		240 Kg	360 Kg
合計	1,100 Kg		1,200 Kg	1,200 Kg

	歩留差異	配合差異
原料A	△50,000 円	0 円
原料B	△36,000 円	144,000 円
原料C	△18,000 円	△108,000 円
合計	△104,000 円	36,000 円

* 数量差異の分析であるため、標準価格を用いて算定する。